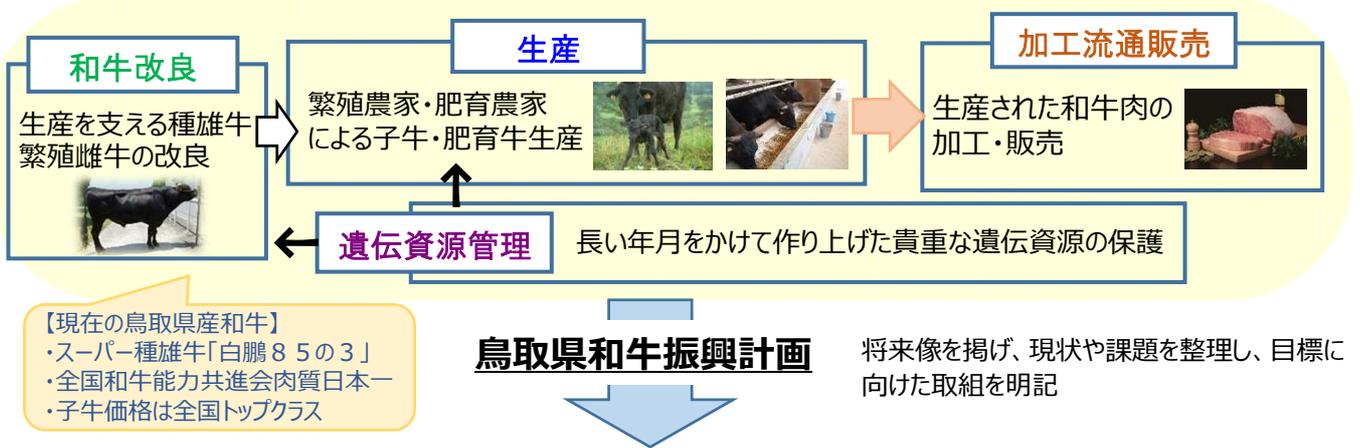


鳥取県和牛振興計画の概要

鳥取県が全国に先駆けて和牛登録事業（和牛改良）を始めてから100年。低迷時期を乗り越え、種雄牛「白鵬85の3」や全共肉質日本一で全国から注目される中、本県は和牛の遺伝資源を知的財産として位置づけ、和牛産地として更なる飛躍を目指すことにしました。そこで、鳥取県の和牛産業である「遺伝資源管理」「生産」「和牛改良」「加工流通販売」の4部門において目指すべき将来像を設定し、それを実現するため、鳥取県和牛振興計画を作成し、実行します。



さらにステップアップして **「和牛といえば鳥取」と呼ばれる産地** を目指す！

1. 目指す将来像

<p>① 県民の財産である県有種雄牛の遺伝資源を大切に守り、未来に継承される鳥取県の仕組みが確立されている。</p> 	<p>② 意欲的な和牛担い手農家（繁殖、肥育）が育ち、鳥取県の和牛生産を支えている。</p> <p>③ 全国から最も注目される活気のある子牛市場となっている。</p> <p>④ 全国和牛能力共進会では常に上位にいる。</p> 
<p>⑤ 和牛改良を意識した生産者により、産肉能力や繁殖能力の高い繁殖雌牛が揃っている。</p> <p>⑥ 生産者、消費者ニーズに応える日本の和牛を支える種雄牛がいる。</p> 	<p>⑦ 鳥取和牛が県の特産品として県民に愛され、観光産業の中心になっている。</p> <p>⑧ 鳥取和牛が有名ブランド牛を超える価格で取引される。</p> 

2. 計画の確認

10年後の2030年の目標を設定し、毎年進捗状況を確認。目標は全国和牛能力共進会の開催を目安に5年ごとに見直しを行う。

将来像

- ① 県民の財産である**県有種雄牛の遺伝資源を大切に守り、未来に継承**される鳥取県の仕組みが確立されている。



現状、課題

- 【現状】**
- 県有種雄牛精液の適正流通を確保するため2020年4月から新たな契約での配布を開始
 - 県有種雄牛の遺伝資源を知的財産として位置づけた全国で初めての条例を制定（2020年10月）
 - 遺伝資源保護と同時に、全国の和牛改良にも貢献するため、一部の種雄牛は精液を県外に提供（販売収入は基金に積み立てて鳥取県の和牛振興に活用）
- ※国では和牛の遺伝資源を守るために「家畜改良増殖法」の一部改正や「家畜遺伝資源に係る不正競争の防止に関する法律」の制定といった法律の整備を行っている。
-
- 【課題】**
- 新しく制定された条例、法律、契約等それぞれの内容を広く県民に理解してもらうための取組が十分とは言えない。
 - 精液の適正流通の確保に必要な家畜人工授精所の確認、報告事務の負担軽減が求められている。

基本方針および取組

【基本方針】

遺伝資源を保護するためのシステムを含めた体制作りや精液の安定供給に向けて取り組んでいきます。

【取組】

1. 遺伝資源の適正管理に向けた取組を進めます

- (1) 県有種雄牛精液の利用のための契約の締結、契約への理解を深めるための研修会等の実施
- (2) 精液等の流通状況がリアルタイムに把握でき、家畜人工授精所の負担軽減となるシステムの構築
- (3) 家畜人工授精所の定期検査による精液等の管理状況の確認

2. 県有種雄牛精液の安定供給および遺伝資源の有効活用に取り組めます

- (1) 県有種雄牛の計画的な造成
- (2) 種雄牛の適正管理、効率的な精液生産
- (3) 和牛改良のための遺伝資源の有効活用
および和牛振興のための鳥取県和牛振興戦略基金の運営



【遺伝資源情報管理システム】（2021年度整備予定）

- ・精液の生産から譲渡、人工授精、子牛の販売までの情報を電子データにより管理
- ・電子化により、精液や子牛の流通状況をリアルタイムに把握でき、授精業務も省力化される



精液生産



人工授精



子牛出生



子牛の販売

これら情報をシステム上で管理



将来像

- ② 意欲的な和牛担い手農家（繁殖、肥育）が育ち、鳥取県の和牛生産を支えている。
- ③ 全国から最も注目される活気のある子牛市場となっている。
- ④ 全国和牛能力共進会では常に上位にいる。



現状、課題

(2014年⇒2019年)

- 【現状】**
- 繁殖雌牛は和子牛の高値安定により、増頭が進んでいる。(繁殖雌牛頭数：2,847頭⇒4,089頭)
 - 和子牛のセリ上場頭数も増加しており、セリ平均価格は全国トップクラスである。
(上場頭数:1,998頭⇒2,419頭 セリ平均価格:約90位⇒3位)
 - 2019年開催の第11回全国和牛能力共進会第7区肉牛群で全国1位を獲得(総合区:12位⇒2位)
-
- 【課題】**
- 高齢の農家を中心に農家戸数は減少。若く優秀な人材確保・育成、生産基盤の強化が必要である。
 - 産地となるには頭数が不足している。毎月セリ開催(現在:8回/年)やセリ上場頭数の確保(350頭以上/セリ)、良質の子牛の上場が求められている。
 - 全国和牛能力共進会で安定的に上位入賞するには、今よりも参加農家の拡大や戦略的な取組が必要である。

基本方針および取組

【基本方針】

繁殖雌牛、子牛、肥育牛増産のため、生産基盤の拡大や人材育成・組織強化に取り組めます。

【取組】

1. 生産基盤の拡大と経営体質強化を進めます

- (1) 牛舎や共同利用施設の整備
- (2) 繁殖雌牛、肥育素牛の増頭
- (3) 堆肥の適正管理や自給飼料生産など持続的な和牛生産の推進



2. セリ市場に上場する良質子牛の増産に取り組めます

- (1) 良質子牛の生産にかかる優良雌牛の改良、計画的な種雄牛造成
- (2) 斉一性のある子牛のセリ上場など全県的な取組
- (3) 乳牛等への受精卵移植を活用した和子牛の増産



3. 人づくり、組織づくりに取り組めます

- (1) 新規就農者や担い手(雇用就農も含む)など人材の確保
- (2) 試験研究成果等の情報提供や技術研修会による人材育成

4. 全国和牛能力共進会での上位入賞獲得を目指しています

- (1) 生産者、団体、行政など関係者の連携
- (2) 出品牛作出に向けた新技術の導入、調教などの技術者の養成
- (3) 県共進会を通じた出品技術のレベルアップ



目標 (2030年)

※将来像の該当項目

	※	現状 (2019)	目標 (2030)		※	現状 (2019)	目標 (2030)
法人数	②	19法人	30法人	和子牛セリ上場頭数	③	2,419頭	4,200頭
繁殖雌牛頭数	②	4,089頭	7,000頭	和子牛セリ価格	③	全国3位	全国3位以内
肥育牛出荷頭数	②	3,066頭	5,000頭	全共総合評価群成績	④	2位	1位

和牛改良

将来像

- ⑤ 和牛改良を意識した生産者により、産肉能力や繁殖能力の高い繁殖雌牛が揃っている。
- ⑥ 生産者、消費者ニーズに応える日本の和牛を支える種雄牛がいる。



現状、課題

(2014年⇒2019年)

- 【現状】**
- 産肉能力のうち、特に脂肪交雑と4等級以上率の改良は順調に進んでいる。
(脂肪交雑:No.6.6⇒No.8.3 4等級以上率:74.3%⇒93.1%)
 - 高い産肉能力を持つ「白鵬85の3」の子牛は、全国の改良の母体として全国から買い求められている。
-
- 【課題】**
- 繁殖雌牛の生産性に関わる分娩間隔は414日であり、全国平均値(407日)よりも7日長い。
 - 脂肪交雑や脂肪の質だけでなく、赤身のおいしさという新たな消費者ニーズを追求することが最近求められている。

基本方針および取組

【基本方針】

改良の母体となる生産者組織を強化し、生産者や消費者が求める繁殖雌牛の改良・種雄牛造成に取り組みます。

【取組】

1. 和牛改良に取り組む人づくり、組織づくりを進めます

- (1) 地域の繁殖雌牛の改良に取り組む和牛改良組合組織の充実
- (2) 遺伝的多様性の保持に取り組む和牛育種組合の強化
- (3) 情報共有による生産者および関係機関との連携



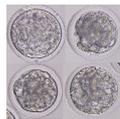
2. 産肉能力に種牛性を兼ね備えた繁殖雌牛の改良を進めます

- (1) 繁殖雌牛の分娩間隔等繁殖能力の改良
(分娩間隔育種価の活用、飼養管理の改善、種牛能力の数値化)
- (2) ゲノム育種価を活用した優良雌牛の保留・導入
- (3) 近交係数や産肉成績に基づいた交配指針による後継牛の確保



3. 和牛の新たな価値を創造する種雄牛を計画的に造成します

- (1) 新技術を積極的に取り入れ、生産者の協力のもとで行う計画的な種雄牛造成
- (2) 新しい改良指標の研究（和牛肉のおいしさ、小ざしなど）
- (3) 産肉能力および繁殖能力だけでなく、遺伝的多様性も意識した種雄牛の選抜



目標（2030年）

※将来像の該当項目

	※	現状 (2019)	目標 (2030)		※	現状 (2019)	目標 (2030)
分娩間隔	⑤⑥	414日	(設定中)	オレイン酸含有率	⑤⑥	54%	55%
枝肉重量	⑤⑥	495.7kg	500kg以上	グリコーゲン含量	⑤⑥	3.5mg/g	4.3mg/g

将来像

- ⑦ 鳥取和牛が県の特産品として県民に愛され、観光産業の中心になっている。
- ⑧ 鳥取和牛が有名ブランド牛を超える価格で取引される。



現状、課題

(2014年⇒2019年)

- 【現状】**
- 県内産和牛の県内流通量が少なく（県内出荷量の約5割）、「価格の高い鳥取和牛は県内では売れない」との関係者の声がある。
 - 首都圏での認知度は4.8%と二十世紀梨の59%やカニの31%と比べてもまだまだ低い。
 - 東京市場への定期的な出荷や首都圏等県外でのPRを行っている。また、台湾を中心に鳥取和牛の輸出量が増えている。（輸出量：145kg⇒10,470kg）

- 【課題】**
- 飛騨牛などの有名産地に比べ、県民への認知度や県外客がわざわざ食べに来る仕組みが不足している。
 - 鳥取和牛の売りとなる特長の不足や品質の安定が求められている。

基本方針および取組

【基本方針】

県民に愛される牛肉を目指して、鳥取和牛の魅力を県内外へ発信し、価値を高めていきます。

【取組】

1. 県民に愛される特産品としての定着化を目指します

- (1) 贈答品や催事など特別な食材として位置付ける
鳥取和牛の魅力の発信、PR
- (2) 指定店など一体となった情報発信、取組の実施
- (3) 学校給食での提供など食育を通じた認知度向上



2. 独自のこだわりを持った高品質和牛肉を提供します

- (1) 特長の明確化による他産地との差別化
- (2) 新たな美味しさ基準の研究開発、実用化
- (3) 高品質な鳥取和牛の安定供給のための技術研修会



3. 鳥取和牛の価値を県外や海外へ幅広く発信します

- (1) 東京市場への継続的な出荷や海外輸出への取組
- (2) レストランフェアや全国和牛能力共進会での入賞など
認知度向上によるPRに向けた取組
- (3) 輸出対応も考慮した鳥取県食肉センターの整備



目標（2030年）

※将来像の該当項目

	※	現状 (2019)	目標 (2030)		※	現状 (2019)	目標 (2030)
鳥取和牛県内指定店	⑦	124店	300店	有名産地との 枝肉単価比 ※1	⑧	85%	100%以上
鳥取和牛の認知度	⑧	4.8%	30%	鳥取和牛の輸出量	⑧	10,407kg	50,000kg

※1 鳥取和牛と岐阜市場との平均枝肉単価との比較